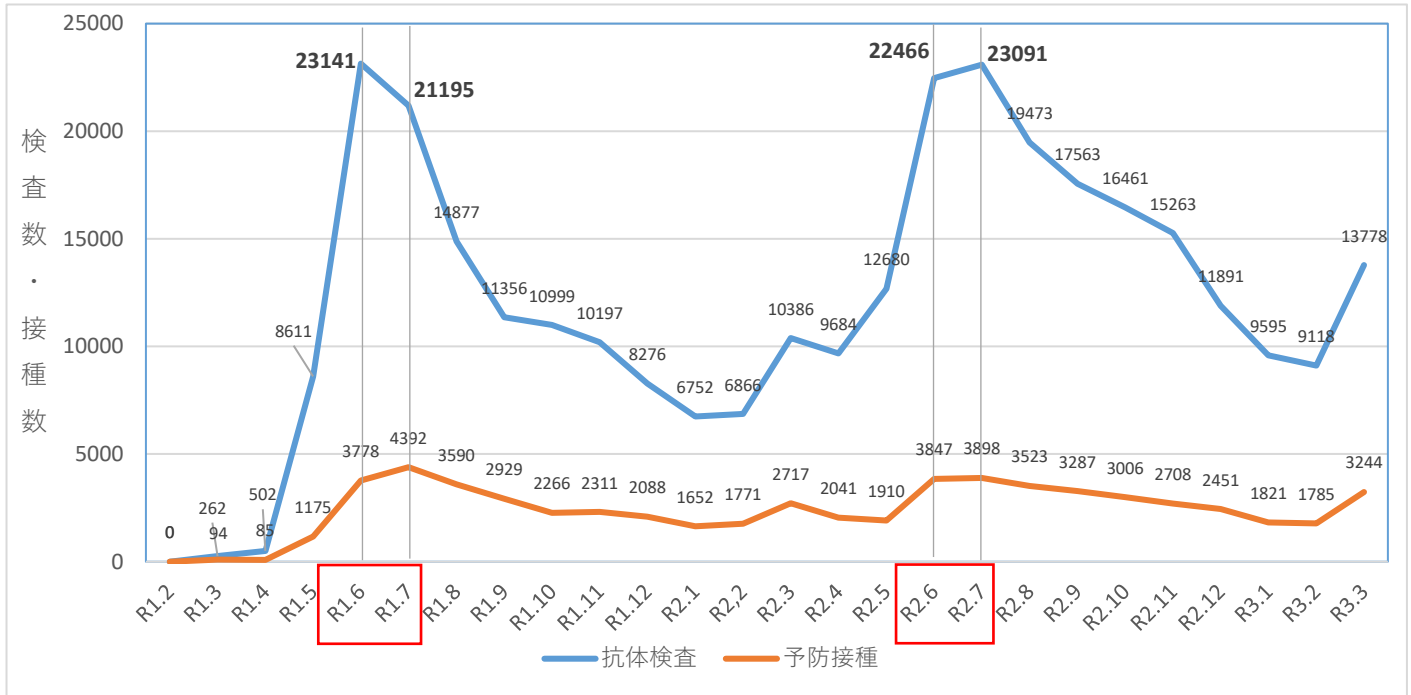
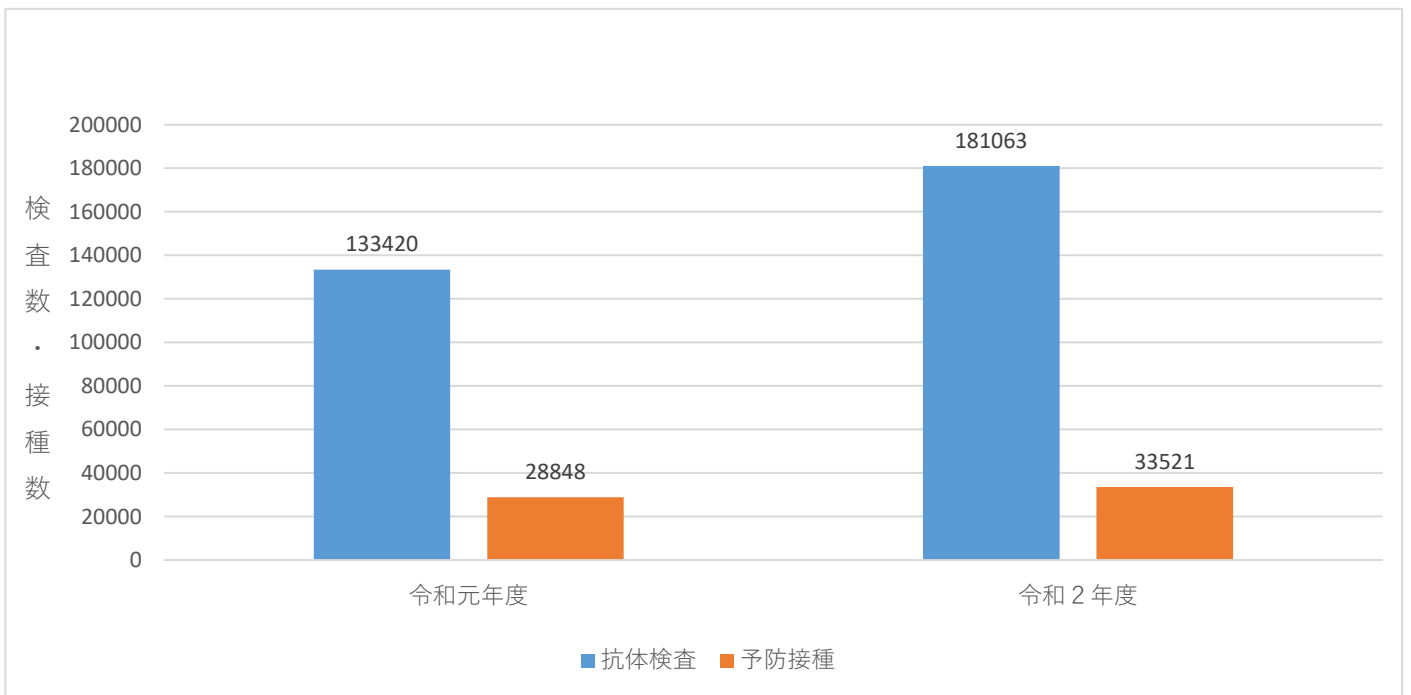


○風しんの追加的対策月別推移



月別の抗体検査は、健診等の実施が多い6月～7月ごろにピークになり、秋から冬にかけて、減少する傾向がある。

○風しんの追加的対策年度別推移



令和２年度の抗体検査は、令和元年度と比較し、約36%増加。

# 風しんの追加的対策の課題・独自の取組

区市町村名	課題									⑩その他	課題の背景、独自の取組等
	①個別通知の時期・回数	②個別通知の内容	③個別通知の手段	④その他情報発信の時期・回数	⑤その他情報発信の内容	⑥その他情報発信の手段	⑦接種日・時間の拡大	⑧国内転入者への取組	⑨海外出生者の転入への取組		
1 千代田区						○					⑥ クーポン券を一斉発送しても開封してもらえていない場合が多いため、広報紙にて勧奨を行っている。
2 中央区			○								③ 未接種者(未検査)はクーポン券を紛失したり、クーポン券を送付していることを忘れての方がいるので、接種率向上に向けて接種勧奨はがきを送付している。
3 港区		○									② 初回送付時等の窓あき封筒に「クーポン券在中」などと銘打つたため、生産年齢世代の対象者にとっては、他の売り込みDM等と見分けがつかなくなった可能性がある。一度開封して中身を確認する手間のかからない、はがき形式で改めて勧奨を行っている。(未受診者全員2021年3月時点) また、新型コロナウイルスワクチンの区内集団接種会場のうち、最も収容人数の多い会場1つを選定して、利用者の動線へのポスター掲示、チラシ配備を依頼した。チラシは封筒として使用できるよう裏面に印刷を行い、クーポンの再発行申請を行うことができるよう工夫した。その後、電話での再発行依頼の中で「会場のポスターを見た。」という申し出が複数あった。
4 新宿区						○					⑥対象者がクーポン券を紛失する事例が多いため、勧奨はがきや広報により再発行可能な旨、周知している。
5 文京区		○									③ 令和3年2月に未接種者に対し、勧奨はがきを送付した。令和3年度については国の助成最終年度である旨を区報及びHP等で周知する。
6 台東区					○					○(新型コロナウイルス流行に伴う接種控え)	⑤本制度の目的が胎児を守ることに重点を置いていることに加え、妊娠を希望する女性や妊婦が同居者にいないことにより、制度を利用することにメリットを感じないとの声をいただくことが何度かあった。 自身の感染予防になる旨をお伝えはしているが、制度目的と対象者の利益が繋がりにくい点が受検率低迷の原因の一つと考える。 ⑩新型コロナウイルス感染症流行に伴い、発生している可能性がある受検控え及び接種控えが目標未達成の原因の一つと考える。
7 墨田区			○								④ 前年度・前々年度の未受検者及び転入者に対してはがき勧奨を行ったが、コロナワクチンの接種が優先と考える方が多いためか、反応が薄い状況となっている。
8 江東区					○						⑤ 区民からの問い合わせに、「なぜこの時期、この年齢になってから追加的対策が講じられたのか」といった質問が複数寄せられている。先天性風疹症候群のことを知っていても、風しんの症状や潜伏期間などの情報を知っている人は少ない。問い合わせに対して、無症状が多いことや潜伏期間が長いことを伝え、周囲に与える影響をしっかりと伝えている。
9 品川区						○					⑥ クーポン券を昭和47年4月2日～昭和54年4月1日生まれには2回、昭和37年4月2日～昭和47年4月1日生まれには1回発送済みであるが、大きな受検率・接種率向上にはつながっていないことが課題であることから、クーポンを受け取った対象者が抗体検査に受検するような情報発信の仕方を検討していく。 今後、区では令和3年度の事業終了に合わせて、さまざまな勧奨を実施していく予定である。すでに、CSR協議会加盟企業への勧奨を実施した。また、区の健康診断に合わせて、区職員へ抗体検査の受検を呼びかける予定である。また、まだクーポン券を1回のみしか発送していない対象者に再度発送するとともに、未受検者に対し、受検勧奨の個別通知の発送を検討している。
10 目黒区										○受検及び接種の機会	⑩ 対象者が仕事を持つ世代であるため、受検及び接種の機会を得難いことが予想される。会社での健康診断の際に、クーポンを持参するように指示されたという方もいるので、受検・接種をしやすい環境整備が実績向上につながるかと考える。
11 大田区	○										① 令和元年度、令和2年度と対象者にご案内を送付しており、広報紙(区報)においてもご案内しているところですが、予防接種を実施していることや重要性などが浸透していないものと推察されます。令和3年度においては未接種者に勧奨通知を送付し、接種率向上をする予定です。
12 世田谷区										○	⑩ 新型コロナウイルス感染症の流行による医療機関への受診控え等に伴い、健康診断に同時実施していた抗体検査実施の機会も減少し、受検率及び接種率の向上が困難な状況である。
13 渋谷区				○							④ 様々な情報発信手段の利用を時期・回数を含め検討する。
14 中野区					○						⑤ 「自分は男性で、妊娠しないのでメリットがない」と思う対象者が多い。今年度、社会全体で免疫を向上させることが重要であることを伝えるため、広報物を改善したが、受検率および接種率の向上につながっているかは今後判断する。
15 杉並区	○										① 令和3年7月末に抗体検査等の勧奨通知とともに接種クーポン券を郵送し、問い合わせ等も多数あったため、勧奨通知の効果はある程度はあったと思う。しかし、新型コロナワクチン接種の予約の時期と重なり、こちらに興味がある人が大多数のため、風しんは気にしていない人もいる。 ⑩ もともと、風しん予防接種が対象外だった世代なので、根本的に意識が低い。抗体検査と予防接種の区別がついていない人も多数いる。また、近くに妊婦がいないという年代もいるため、真剣に考える人が少ない気もする。
16 豊島区			○								③ 未受検者に対しクーポン券を再送するには、郵便料金がかさむので、ハガキによる
17 北区							○				⑦ 電話・はがきなどの受付に加えて、電子申請でのクーポン発行の受付を開始した。平日夜間や休日の申込みが増加した。
18 荒川区	○					○					① 個別通知を行うにあたり、コロナワクチンの開始時期と重ならないように注視しながら、未実施者に対し勧奨はがきを送付した。
19 板橋区							○				⑥ 区報にクーポン券の使用期限延長について周知を行ったが、反応があまりなかった。そのため、Twitterやフェイスブックを活用した周知も行った
20 練馬区	○										⑦ 通常の医療機関では、平日19時程度までの医療機関が多く、働く世代の受診が難しい可能性がある。
21 足立区										○医療機関への受診控え	① 抗体検査未受検者への勧奨ハガキ送付 抗体検査陰性かつ未接種者への接種勧奨通知送付 ⑩ 課題の背景：コロナ禍により外出を忌避している方が多く、そのために接種率が目標に達しない。 独自の取組：予防接種は不要不急ではないことや、医療機関の感染対策を広く周知している。

区市町村名	課題									⑩その他	課題の背景、独自の取組等
	①個別通知の時期・回数	②個別通知の内容	③個別通知の手段	④その他情報発信の時期・回数	⑤その他情報発信の内容	⑥その他情報発信の手段	⑦接種日・時間の拡大	⑧国内転入者への取組	⑨海外出生者の転入への取組		
22 葛飾区				○							④ 区の広報、ホームページでの周知を行っているが、回数等について見直しを検討している。なお、周知については、区独自の取り組みも必要だが、東京都、国にも働きかけたい。 区の独自の取り組みについては、コロナの集団接種会場でのポスター、チラシの掲示を一部会場で実施している。現在、多数会場でのポスター等の掲示を検討中。
23 江戸川区	○										①5期対象の年代の男性については、配偶者も高齢等で接種に関心がない方が多い。そのため、再勧奨の上乗せ効果が見込めない。来年度も同じ方に送付しても状況は変わらないと考えられる。
24 八王子市			○								③ 未受診者に対して、勧奨通知等を出すことは有効だと考えますが、通知作成等や郵送料等に時間・費用が掛かる。
25 立川市				○							④ 広報掲載しても反応が鈍い。コロナへの関心のほうが強い？
26 武蔵野市	○				○						① 令和3年5月に、未受診の対象者宛てに再度クーポン券を送付した。 ⑤ 新型コロナウイルスワクチンと同時期に接種してもよいものか懸念があるといった問い合わせが何度かあったため、市ホームページに新型コロナウイルスワクチンとの接種間隔について案内を掲載した。
27 三鷹市			○								③ クーポン券を一度または二度送付するのみでは、忙しい該当世代には効果が薄いと感じている。令和3年度は最終年度として、クーポン未利用者へ勧奨通知を個別送付しており、クーポン再発行の依頼も一定数から受けているので、再度の勧奨は必要であると思われる。
28 青梅市						○					⑥ 抗体検査未受診者への再勧奨通知の送付や広報等での周知を行っているが検査者数の上昇にはなかなかつながらない。 風しんが流行してしまうことの危険性や、抗体検査の重要性をわかってもらえるよう行政からの周知だけではなくテレビ・新聞等の報道機関で取り上げてもらえるよう対象世代の当事者意識を高められるのではと考えられる。
29 府中市						○					⑥ 特定健康診査の通知書の封筒に風疹抗体検査の受診を促す文章を載せている。
30 昭島市			○								③ 予防接種に対する関心の低い方は、封書でクーポンや説明資料を送付しても目に入れないことが多いように見受けられる(見た覚えがない、来ていたかもしれないがよく覚えていないといった声が上がっている)。 はがきで再勧奨を行ったところ、郵便受けから取り出す時に内容が目に入るためか、当初のクーポン発送時には関心を向けていなかったと思われる層の意識を引いている手応えがあった。
31 調布市						○					⑥ 市報への掲載回数を増加することを検討している
32 町田市	○										① 未接種者に対し複数回にわたる再勧奨の必要性があるものの、人員体制・予算上の都合等により1回のみ再勧奨にとどまっている。そのため、広報誌を活用した周知を実施する予定である。
33 小金井市					○						⑤ 未受検者の方へハガキを送付した。
34 小平市										○有効期限など	⑩ クーポンが有効期限切れのため、使おうと思っても使えない。もしくは紛失している等で接種できていない。 上記内容の問い合わせがあった場合、比較的容易に再発行するようにしている(有効期限切れでない過去に発行したクーポンが見つかった場合は必ず処分するよう説明している)。また、市報やホームページに接種勧奨の記事を掲載するなど接種率向上に向けた取組を行っている。
35 日野市	○					○		○			① 期間が延長されるたびに通知を送付することができず、HPや広報のみでのお知らせになってしまった。 ⑥ 職員の健康診断時に抗体検査が受検できるように市として取り組んだ。
36 東村山市	○										⑧ 転入者には定期的にクーポン券を送付していたが、コロナワクチンクーポン券との混乱を避けるため、現在は送付ができていない。
37 国分寺市						○					① 令和3年1月に初回の再勧奨を実施している他、母子健康手帳交付時に窓口にて(対象者である場合)勧奨を実施することで、受検率及び接種率のさらなる向上を図っている。 ⑥ 自分に関係のないことだと思う方が多く、接種する必要があるのかのわからない人も多いことが課題である。 自分にも関係のあることだと捉えてもらえるよう、様々なツールで情報を発信していく。
38 国立市	○										① 令和元～2年度に対象者にクーポン券は送付したものの、人員不足による業務繁忙のために未受検者の一部には追加勧奨ができていなかった。令和3年度は未受検者を対象として勧奨はがきの送付を予定している。
39 福生市		○									② 見落とされないよう、通知のレイアウト等を工夫する必要がある
40 狛江市	○										① 年度末に個別通知を発送後、問合せが増え、その後の受診率が上がる。
41 東大和市										○人員不足	⑩ 新型コロナウイルスワクチン接種関連事業に比重がかかり、対応できない状況の為、手薄になっている。
42 清瀬市										○再勧奨通知	⑩ 接種していない方に対し、再度勧奨通知をお送りしていて、その後接種希望する方が多くなってきている。
43 東久留米市						○					⑥ 問い合わせを受ける中で、「新型コロナデルタ株感染拡大で外出自粛の最中、配偶者及び子供夫婦が妊娠希望女性(妊婦)の風しん第5期対象者以外の方に、抗体検査受検に関心を持って貰う事」の難しさを感じている。市報及び市ホームページでの一般的な広報や、厚労省からの協力依頼に基づくクーポン券送付及び再勧奨はがき送付は行っているが、独自の取り組みまでは出来ていない。
44 武蔵村山市	○										① 対象者全員にクーポン券を送付するとともに、市報・市ホームページで事業周知を図っている。
45 多摩市	○							○			① 接種期間の延長について、対象者に個別通知を郵送して、周知を行った。 ⑧ 転入者を対象に、クーポン券の郵送を行っている(毎月下旬)
46 稲城市			○								③ 封書を送付しているが、中身を見ないまま破棄している可能性があるため、ハガキでの送付を検討する。
47 羽村市						○					⑥ クーポン郵送、勧奨ハガキ郵送、広報誌のお知らせ、メール配信等をしている
48 あきる野市	○										① 対象人数が多いため、勧奨の回数が少なくなる。

	区市町村名	課題									⑩その他	課題の背景、独自の取組等	
		①個別通知の時期・回数	②個別通知の内容	③個別通知の手段	④その他情報発信の時期・回数	⑤その他情報発信の内容	⑥その他情報発信の手段	⑦接種日・時間の拡大	⑧国内転入者への取組	⑨海外出生者の転入への取組			
49	西東京市		○								○		⑦ 勤労世代が、医療機関が開いている間に受診することが難しい。 ② クーポン券を発送しても、興味を持ってもらえない。 抗体検査を受け、抗体価が低く、未接種の方に勧奨はがきを送付している。
50	瑞穂町				○								④ 特定健康診査と同時実施した(町内医療機関を除く)。
51	日の出町	○				○							① 6月に個別通知を発送 ⑤ 広報誌に初年度・2年度目のクーポン券が令和3年度まで使用できるよう掲載
52	檜原村			○									③ 新型コロナウイルス感染症対策等により、予防接種対象者へ勧奨対策としては通知(お知らせ)発送のみとなってしまった。今後の課題としては、感染症対策等を踏まえながら、受検率及び接種率向上する為の再勧奨対策方法を検討する必要がある。
53	奥多摩町										○		⑦ 土、日、祝日に町内医療機関で受検することができない。
54	大島町											○	⑩令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、受検率、接種率ともに低迷した。 対象者には、既に接種券を個別に郵送している。 また、全戸配布される「広報おしま」への掲載も行っている。
55	利島村												
56	新島村												
57	神津島村												
58	三宅村												
59	御蔵島村			○									③基本的には担当者・診療所から伝えるようにしているが、兼任しているために見落としが発生しかねない状態にある。
60	八丈町												
61	青ヶ島村										○		
62	小笠原村				○								④ 島内健康診断に合わせて実施しているが、抗体検査の結果後の予防接種までに間が開いてしまい、進まないため、抗体検査後の予防接種のお知らせのタイミングが難しい。
合計		15	3	9	6	6	11	4	3	0		9	
同系統の項目計		27			23			4	3			9	



課題(Ⅰ):対象者が働き盛りの世代の為、受検及び接種の機会が確保できていない

対応策:

- ・新型コロナワクチン接種会場でポスターやチラシを掲示
- ・特定健康診査の通知書に抗体検査の受検勧奨を実施
- ・職員の健康診断時に抗体検査が実施できるよう体制整備
- ・CSR(企業の社会的責任)協議会加盟企業への勧奨

課題(Ⅱ):妊娠を希望する女性や妊婦が身近にいないことにより、制度を利用するメリットが訴求できていない。

対応策:風しんの症状(無症状が多い、潜伏期間が長い)や先天性風疹症候群等を丁寧に説明し、予防接種の重要性を説明。

課題(Ⅲ):DM等と区別がつかず、開封してもらえていない可能性がある。